

令和3年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

校訓	「誠の心にしたい信念を貫く」		重点目標	(1) 学力の充実を図る。 自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化により学力を充実させる。 通信端末による視聴覚教材を活用し、学習習慣の確立、基礎学力の定着、学習到達度の向上を目指す。 (2) 日々に満足できるよう充実した生活をする。 自己を大切に、他への思いやりをもつ。 自ら考え、正しく判断し、よりよく表現や行動ができる。 (3) 社会に貢献する態度と能力を養う。 社会人となるにふさわしい人格を形成する。 目標を持って、自らの未来を切り開いていく。	学校法人 誠恵学院 誠恵高等学校 校長 飯島 修	
	校訓の「誠の心にしたい信念を貫く」のもとに、実践力のある生徒の育成を図る。				総合評価	(評価) <b>B</b>
学校教育目標	未来を広げる高い学力・・・教科学習の充実、学力向上。 意欲に満ちた輝く生徒・・・自ら学ぶ力、思考力、判断力、表現力を高める。					
重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力の充実を図る	①自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化に力を入れる。学力の定着と学習意欲の高揚を図る。	予習・復習の習慣化、学力の定着化を図るための手立ては（小テスト等）適切であったか。	B	定期的に小テストやノート提出、演習課題を設けることで復習や学力の定着化につなげることができた。しかし、自ら課題を設定し、予習等の学習に取り組む生徒はごく一部であった。	B	ICT教材を活用しての予習・復習によって、学力の定着化がよく図られている。今後は、与えられた課題を自発的な取り組みに発展させる指導が期待される。
	②充実した指導計画のもとに教科指導を行い、多読、繰り返し学習などにより、「わかりやすく」「魅力ある」学習を展開する。	多読や繰り返し学習、また、「わかりやすく」「魅力ある」授業を行うことができたか。	B	導入やまとめを工夫し、因果関係を簡素にすることで「わかりやすく」「魅力ある」授業となるよう努めた。また、授業の重点を明らかにし、多読と繰り返しを意識した授業ができた。	A	Monoxerによる一問一答形式での繰り返し学習が充実している。また、応用よりも基礎に重点を置くことで「わかりやすく」「魅力ある」授業となっている。
	③補助教材として「スタディサプリ」・「Monoxer」を活用し、自学自習による学力の向上を目指す。	「スタディサプリ」・「Monoxer」を活用した学習に目標を持たせ、意欲的に取り組ませることによって、基礎学力を向上させることができたか。	B	定期試験対策として Monoxer のタスクを各教科で作成するなど、基礎学力の向上に役立てることができた。しかし、スタディサプリに関しては補助教材として活用する教科が少なかった。ボトムアップの為の有効活用法等、学習支援課による具体的な計画の立案が必要である。	A	年に2回行われるスタディサプリ到達度テストで基礎学力の向上が実感でき、意欲の向上につながっている。今後は、その結果を踏まえた上での学習支援が望まれる。
	④目的意識を持って学習に参加できるようにする。漢字検定、英語検定、数学検定及び情報各種検定、その他検定試験に挑戦し、資格取得者を増やす。	目標を持って選択教科の学習に取り組ませ、興味・関心・意欲等を高め、成果を上げることができたか。	B	放課後や昼休みに個別指導を行うなど、成果を上げる努力はしたが、資格取得に向け、前向きに学習する生徒の増加にはつながらなかった。声掛けや奨励の方法等、興味・関心を高める工夫が必要である。	A	上級の資格取得者が増加している反面、総受験者数は減少していることから、個別指導だけではなく、全体指導も充実させる必要がある。

重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力の充実を図る	⑤個に応じた指導、習熟度等に対応した授業の工夫・改善により、分かりやすい授業を行う。	校内研修や各教科部会等での研修を通して、学習指導法の改善に努めることができたか。	B	各教科部会において、有効な指導方法に関する意見交換を行い、個々の指導法の改善に努めることができた。しかし、校内研修の機会が乏しく、横断的な学習につなげることができなかった。教科を問わず、校内研修を充実させたい。	A	学習に対して苦手意識の強い生徒への指導が行き届いている。各教科における研修がしっかりと為され、同水準での指導が達成されている。
2. 日々の生活の充実を図る	①自己を大切に、他人への思いやりを持った責任ある行動をとる。生徒との意見交換を通して、生徒を育てる。自らの意志と責任で行動できるようにする。	全教育活動を通して個に応じた指導を進め、また、カウンセリングマインドで生徒に接し、生徒の心を育てる教育が実践できたか。	A	昼休みは各クラスに教員が一人はいる体制をつくり、よく観察・対話をするよう心掛けた。普段と様子の違う生徒がいた場合には、個別相談を行った。また傾聴に努め、個々の意見を尊重しながらも、思いやりに欠ける言動に対しては改めるように指導した。	A	生徒の悩みに寄り添う指導が徹底されている。管理職をはじめ、全教職員が生徒とよくコミュニケーションをとれている。
	②生徒の良い点を伸ばし、改めるべきことは改めさせてやる気を育てる。	生徒ひとりひとりに改めるべきことを自覚させ、良さを見出し、意欲の向上につなげることができたか。	A	生徒の良さを見出し、賞揚できた。改めるよう指導する際は頭ごなしに叱るのではなく、どのように考え、何をしたかったのかを聞き出してから、どうすれば最も良かったかを論ずるように心掛けた。	A	善い行いに対し、全体で奨励する雰囲気づくりが為されている。また、改めるべきことに対して、はっきりと伝えられる信頼関係が構築されている。
	③挨拶・言葉遣い・服装等を正し、遅刻・欠席の防止、清掃の指導を徹底する。教職員は倫理を重んじ、自己試練を含め厳格なる手本を示し、生徒の範となるよう努める。	教師として厳粛なる倫理観のもと生徒に範を示し、遅刻・欠席を減らす指導や、適切な挨拶、言葉遣い、服装等の生活指導を、厳しくまた温かく進めることができたか。	B	否定的な発言を避け、生徒の健康状態や精神面に配慮しながら、礼節の重要性や時間を厳守することの大切さを伝えるよう心掛けた。しかし、継続した指導が必要となる場面が多く、即改善とはいかなかった。	A	日々の通学路指導や校門指導、遅刻者・欠席者指導を通して、生活指導が徹底されている。
	④社会に出て認められる人間になるよう自らを伸ばし、他とともに切磋琢磨する。社会貢献の気持ちを育てる。	授業・諸活動の体験等を通して、ボランティア精神や社会貢献の気持ちを高めることができたか。	B	社会情勢や毎日の清掃などの身近な話題を引き合いに出しながら、ボランティアや社会貢献の気持ちを高める指導ができた。	A	自転車マナー向上委員会や沼津eスポーツフェスティバルへの参加など、地域貢献活動での活躍が目立つ。また近年、善行賞を受賞する生徒が多数おり、ボランティア精神がよく育まれている。
	⑤生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を徹底し、生徒の指導すべき点は同一歩調で対応し、その場で正し、職員の連携を図る。細心の注意をもって生徒・保護者との信頼関係の構築に努める。	生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談・記録を適切に行い、保護者との連携のもと全校体制での対応ができたか。	B	学年単位では報告・連絡・相談・記録が徹底され、同一歩調の指導ができていたが、学年差が出てしまい、全校体制の連携はとれていなかった。生徒・保護者との信頼関係を強めるために、面談には学年副主任以上を同席させる等、工夫した。	B	管理職までの風通しが良く、教職員同士での報告・連絡・相談・記録が適切に行われている。生徒・保護者との信頼関係の構築に関して、細心の注意をもって行われている。

重点 目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
3. 社会に貢献する態度と能力を育てる	①社会人となるにふさわしい健康管理を身につける。	生徒自らが進んで規律正しい生活、健康の保持・増進等に努めることができる指導を適切に行い、その成果をあげることができたか。	B	COVID-19 対策等、健康保持の指導を徹底できた。その結果、校内における感染を防ぐことができた。	B	ワクチンの副反応等で停止・欠席者が増加したが、保健室利用者が減少するなど、健康管理指導は適切であった。
	②目標を持って自らの未来を切り拓いていく。	個性に応じて進路が決定できるようにするため、一般的な教養を高め、専門的な技能の習得に努めさせることができたか。	B	総合的な探究の時間を活用し、個性に応じた進路決定に必要な知識・技能の探究に努めさせることができた。しかし、こちらが先導する場面が多く、自発的なものではなかった。	B	生徒一人一人の個性をよく把握し、それに沿った進路指導が為されている。反面、高い目標を設定し、挑戦する生徒が少ないようにも思える。今後は、可能性を広げるような進路指導もより充実させて欲しい。
	③「社会に必要とされる人材の条件」を理解させ、人生を豊かにできるよう指導する。進路指導計画の充実を図り、保護者・生徒との相談に応ずる。	進路指導を計画的に進め、資料提供や進路相談を適切に行い、進学・就職指導に留まらず生き方指導につなげることができたか。	B	日々の学校生活の中で「社会に必要とされる人材の条件」を理解させる指導を行い、資料提供や進路相談を適宜行うことができたが、計画性に欠けた。	A	「自分は給与を与えられるにふさわしい人間か」と、生徒に考えさせるような指導が為されており。「社会に必要とされる人材の条件」を十分理解させていた。今後は生き方指導にもつながるように、税金や保険などに関する知識も身に付けさせると良い。
	④進学コース、普通コースの指導を充実させ、国立大学、有名私立大学への進学を増やす。	進学希望者への学習支援を行い、学習環境を整え、受験への対応ができる指導を進め、成果を上げることができたか。	B	放課後や夏季・冬季休業を利用し、進学希望者への学習指導を適切に行った。その結果、大学入学共通テスト受験者や、一般選抜入試での受験者が増加した。	B	受験を控えた3年生だけではなく、1・2年生への指導も充実していた。上級生に感化され、早い段階から模試に挑戦するなど、下級生の受験に対する意識が高まっている。
	⑤就職指導では、企業訪問など本校の実績を更に高めるよう努力する。	就職希望者の求職意欲を高め、企業訪問を実施し、就職内定率を高めることができたか。	B	企業訪問や企業面談を適切に実施し、進路開拓につなげた。また、面接指導や履歴書指導を徹底し、資料提供を確実にすることで求職意欲を高めることができた。そのため、就職内定率は高水準を維持している。	A	勤務地や事業内容など、個々のニーズに応えた進路開拓が為されていた。会社見学前の指導も徹底されており、特に第一印象を意識した指導をしっかりと行っていた。